更に選び出される
第二の實行委員
形を變へて現はれんとする大阪電燈の勞働爭議

…込町千好湯樹手の安治川支部で總會を開き佐藤氏を招いて報告演説を開くと共に同氏の非行を糺彈することとなつた突飛はされる樣にして廣間の片隅に突立つた佐藤氏はかすれた聲に力を籠めて先づ十四箇條を提出した迄の經過を述べ「創立後一箇年半の短日月で十分訓練の屆かない團體の力を以て要求條件全部を貫徹するといふことはむつかしい又宮崎社長と最後の會見をした時自分は一先づ引取ろことを言明したが全部會社の回答を容認したとは言はない故に今後第二第三の實行委員が出て初志を貫徹して下さるがよく自分は會社に買收された憶えは斷じてない」と說き來るや憤激の聲は會場一杯に昂がつて「質問あり」「何を白々しいことをいふ」など立往生の佐藤氏に槍の如く突つ掛る「凡ては私の不明の致す所でありました、茲に私は精神的に自ら死な

…ヤッつけろ」と詰問嘲罵が八方から縦出して佐藤氏は演壇に立往生此の時友愛會の西尾主事起つて滿場を鎮撫し

佐藤氏は勞働者の敵は資本家であると云つたが吾々は此の場合勞働者の敵は勞働者を估る者であると信ずる

と大向を唸らせ他の實行委員も油を搾られ何れも「不明の致す所であるから今日限り自決致します」と平あやまりに謝まり滿場總立ちになつて

謝罪する丈では承知ならぬ會社を辭職する事を條件として謝罪せよと迫り呼や鐵拳飛ばんず形勢と化したので司會者は福島署の注意により解散を宣し聽衆喧騒裡に佐藤氏以下實行委員等の姿は何時しか場外に消れたので聽衆は容易に解散せず頻に警固の警官に追ひ立てられてゐた、時に午後八時

別項佐藤氏の報告演説會は轉じて査問會となり十四名の實行委員は全部引責辭任したが電業員會では同夜第二の實行委員として安治川發電所より

深田茂樹、深田芳雄、稲本宣長衛、飯原、竹村、中村、松、佐々木、大岡

の九名を

春日出發電所は

小西、松村、石宮、佐野、徳永、伊藤、公田、前田、岩瀬、佐田、大橋、笹井、東、光藤、小倉、尾形、太田、大久保、松本、岡田

の強硬分子中より實行委員を選ぶことを申合せ某所に密合協議した上一先づ解散したが流言蜚語盛んに行はれつゝある、若し第二の實行委員が蹶起するとせば友愛會の勢力が著しく伸張したこととなり大電の勞働爭議は此處に形を變へ電業員組合の假面を被れる友愛會對大電の爭議となり解決は一層困難と推測されつゝある

大電側は 戰々兢々

第二實行委員が目的を貫徹する方法として再び要求書を提出するか但しは六日朝受取つた回答書を返戻するか二途何れを選ぶかは疑問であるが會社側は八日午後三時半形勢不穩の報を耳にして直に重役、課長を召集し密議を凝して兩發電所の防備を嚴重にすると同時に

治、山本準二、春日出發電所の小西友治、佐野尊利、高倉孝幸の諸氏を第二實行委員に確定し

第一實行委員の手で解決した十四箇條の解決は不服なりとし更に

一、兩發電所の職工中電業員組合に加入せざる他の勞働團體に加入せるものゝ閉鎖交渉權を確認する事
一、期末賞與の要求
一、退職手當の増額支給
一、犠牲者を出さゞる事

の四項の容認を求め會社側は萩原庶務課長、若林技師長をして折衝せしめてゐるが、會社側が新實行委員を正當のものなりと認むるか否か、此邊は加々美特高課長が遊に仲裁の勞を執れる關係上其の判斷に迷つてゐる有樣で會見は午後二時半を過ぐるも終了しなかつた

協議頻り

大電から事態不穩を聞いた大阪遞信局では直に上妻技師が中心となり北區東梅田町の阪神電鐵會社に大電、宇治電、阪神其他郊外電車の電力技師參集し電力動員とその配備につき協議を凝す所があつた

陸軍大尉自殺

富山市帝國軍人分會幹事後備陸軍步兵大尉從七位勳五等功五級淵田寬齊氏(五十)は八日午前四時半自宅で自殺を遂げた(金澤來電)

…警戒に努めてゐるが此際擾も疑問視され居る友愛會の態度は矢張り黑幕として裏策の任に當り表面の交渉は電業員組合が當ることに決

明して引き取り形勢は樂觀を許さない

面目を丸潰れにされた
加々美特高課長は 如何なる態度に出るか

大電問題の再燃につき最も注目されて居るのは加々美特高課長が如何なる態度に出るかといふことで、ある鑿に仲裁して圓滿に解決した課長の面目は丸潰れとなつて居る關係上第二實行委員に對して如何なる態度で接するか、これは第二實行委員が加々美課長の手を經ずして直接大電と交渉を開始したのと思ひ合はせて興味多い問題と言はねばならない九日午前十一時半大電重役を訪問した同課長は自分の今後の態度につき語つたやうだがソレは頗る疑問視されて居る

…藤代表が宮崎重役と膝し合せ勞働爭議を政略に利用した事がありますと各新聞記者に語つたのは自分の名譽を毀損せるものだと憤り九日今井博士に依頼し出訴の手續きを取つた、右に就き佐藤氏は語る

八日午後四時から大阪北區西野田

…る相談役である、電業員組合員は我々が委員として取つた解決に滿足して居るのである、六日の經過報告の際は総會として西尾主事に退席を願つた事が偶々感情問題になつて居るように思はれる、唯會員たる友愛會の人々が如何に流言蜚語を盛んに放つても電業員組合員は一時打切つた事であるから不穩の行動に出るやうな事はないと信じて居る